

Interview

地域のさらなる活性化に期待



JR平泉駅 駅長
平岩 一夫 さん

参加人数が増えるだけでなく、全国各地から集まることで、大会がさらに盛り上がっています。交流人口が増えることで、地域のさらなる活性化を期待しています。

Interview

人が集まることで、駅前に活気が出ている

ゴールドレンタ平泉

佐々木久美 さん(写真左)

普段の駅前には静かですが、弁慶力餅競技大会開催時には、人が集まり、活気が出ています。またつきたての餅の振る舞いも観光客に喜ばれています。



Interview

保存会の人たちの頑張りがあったからこそ



SATO
佐藤 渉 さん(写真左)

弁慶力餅競技大会は、小さいころから見ており、昔と一緒に活気があって良いです。保存会の人たちの頑張りがあつたからこそ、これまで続いてきたのだと思います。



大会を通じて、JR平泉駅前の活性化にもつながっている



駅前広場

毎年当たり前のよう開催されている弁慶力餅競技大会ですが、これまでに継続することができたのは多くの人たちの支えがあったからこそ。地域の有志で始めた小さな大会は、今では全国各地から集まる大きな大会にまで成長しました。

参加者が楽しめるように努力を続ける



弁慶力餅競技保存会 会長
鈴木 勉 さん (13区)

1952年生まれ。弁慶力餅競技大会会長を務めて6年目。競技大会の県外でのPR活動や、視察研修先の優良事例を取り入れるなど、大会の活性化に取り組んでいる。

雨で開催が危ぶまれましたが、中止や事故もなく、今大会が成功裏に終わりました。

弁慶力餅競技保存会では、毎年全国各地の力餅大会に視察研修に行っています。競技内容は違いますが、参加者に楽しんでもらえる

ようにさまざまな工夫がされておられ、とても勉強になります。平泉でも、女性や子どもも競技を楽しめるように新たに部門を設立したところが、にぎやかになり活気が出ました。

今後も参加者が楽しめるように努力します。

先人たちの思い
JR平泉駅前の活性化を図りたいという熱い思いから生まれた弁慶力餅競技大会。その思いの現状です。
近年では県外でのPR活動などの効果により競技大会の知名度が上がり、近隣地域だけでなく、県外から参加する常連も増えてきました。町外の出場者はもちろん、町内の出場者が増えていくことは競技大会の盛り上がりにつながります。毎年5月5日はぜひ大会に出場しましょう。

観客の声
競技大会のにぎわいを支える観客。その熱い声援は出場者のモチベーション向上につながります。大会を見るのを楽しみにしている人に話を伺いました。

大会に出場する町民が減少
競技大会が盛り上がり、参加者が増えていく一方で新たな課題も浮き彫りになっていきます。それは大会に出場する町民が減少していることです。今回開催した競技大会、子弁慶の部、女性の部の3部門において、各部門の全体出場者のうち町内の出場者の人数を比較してみると、子弁慶の部では6人中5人、女性の部では17人中6人、競技大会に至っては33人中1人という状況になっています。
保存会では、幼いころから競技に慣れ親しんでもらうことを考え、子弁慶の部やちびっこ弁慶の部を設立しましたが、残念ながら参加者数がまだまだ少ないのが現状です。

Interview
見物客 松本正弘 さん (一関市)

大好きなので、農作業を途中でやめて見に来ました。大ベテランと息子さんの親子二代での出場も見どころでしたね。

Interview
見物客 阿部 進 さん (奥州市)

知り合いの応援方々、見物を始めて12年になります。出場者の顔がだいたい分かるので、順位を予想するのも楽しみです。

Interview
見物客 千葉勝代 さん (一関市)

競技に出てみたいぐらい好きなのですが、年なので声援を送るだけで我慢しています。出場者が頑張る姿が素晴らしいですね。